

受賞者氏名	安藤 直見	
所属	デザイン工学部建築学科	
受賞年月日	2023 年 6 月 10 日	
国内・国外	国内	
授与機関等名称	日本図学会	
受賞名	日本図学会賞	
受賞(研究)内容詳細	以下、推薦文より 業績 「建築分野における図学に関する教育・研究・制作活動」 推薦理由 安藤直見氏は、法政大学で長きにわたり、建築分野における図学およびコンピュータグラフィックスに関する教育に尽力してきた。その教育成果は日本図学会でも度々報告されており、2018 年には教育論文賞を受賞している。また、これまでに指導学生も本学会の大会等に多数参加して研究発表を行っており、図学の広がり・発展に寄与してきた。 研究面では、建築・都市空間の形態やイメージに関する研究成果を、1987 年以来ほぼ毎年にもわたって日本図学会で発表しているほか、本学会と関わりの深い ICGG(International Conference on Geometry and Graphics)や AFGS(Asian Forum on Graphics Science)のみならず、図学に関する教育研究の盛んなセルビアやルーマニアの図学会など、多様な国際的学術会議の場で研究成果を多数発表している。研究面における研究業績の骨子を以下に示す。 1. 建築・都市空間の形態の多様性に関する一連の研究。 2. 映画に描かれた建築・都市空間のイメージ記述に関する一連の研究。	

3. コンピュータを用いた建築図学教育に関する一連の研究.

また、日本図学会モデリングコンテストで受賞(計 3 回)、Asian Digital Modeling Contest で受賞(1 回)し、2 点の建築作品を発表するなど、研究成果を制作面にも積極的に活用している.

これらに加え、本学会における大会実行委員長（法政大学 2010 年）、企画広報委員長（2013-2017 年）、理事（22・23・28 期）、副会長（24・25 期）に加え、AFGS2017 の実行委員長を務めるなど要職を歴任し、本学会の運営にも多大な貢献を果たしてきた.

以上のように、安藤直見氏の一連の業績は、建築分野における図学に関する教育研究を日本国内にとどまらず、国際的に促進・発展させるものであると考えられる.

以上、建築分野における図学分野の発展に対する安藤直見氏の寄与・貢献は多大であり、これらの業績及び学会活動は日本図学会賞に相応しいものとして推薦する.

学会賞選考員会選考結果

学会賞選考委員会は、安藤直見氏が日本図学会賞授賞規定を満たしており、同氏を日本図学会賞の受賞候補者とする.

<https://www.graphicscience.jp/award/list.html>

受賞者氏名	安藤 直見	
所属	デザイン工学部建築学科	
受賞年月日	2023 年 10 月 5 日	
国内・国外	国内	
授与機関等名称	公益財団法人日本デザイン振興会	
受賞名	2023 グッドデザイン賞	
受賞(研究)内容詳細	■受賞対象 小規模街区「黒門町の街並みと小さな広場」 	
	明治 24 年築の 5 戸の単身者向け賃貸アパート，昭和 12 年築の宿泊施設，平成元年築の重層長屋（1 階が宿泊施設，2 階がファミリー向け賃貸住戸），明治 18 年築の管理事務所を兼ねた地域交流施設の 4 棟の建築群からなる約 1,000 m²の街区。	
	■デザインのポイント 1. 歴史的な街並みに呼応する風景と地域に開かれた外部空間の創出 2. 明治，昭和，平成の各時代の風情をもつ建築の再生 3. 住空間の用途の拡張/変更と構造補強/耐震補強による空き家の活用	

■審査委員の評価コメント

かつては3世代が4棟の建物とともに生活していたプライベートな街区を、賃貸住宅、宿泊施設（民泊）、交流施設等に用途変更し、パブリック性を内包した街区へと機能再編したプロジェクトである。4つの既存棟を建設時期や用途機能にあわせて、明治棟、昭和館、平成棟、黒の斜蔵と名づけ、海外の旅行者や地元の利用者へ訴求力のあるアピールを行っている点も面白い。そして耐震補強や設備更新を行いつつ、歴史的な黒堀を再生しながら屋外の広場や庭園と周辺の街を有機的につなげることで、街の中に新たな息吹を吹き込んでいる。今後ますます増えていく空き家対策における好事例として評価したい。

<https://www.g-mark.org/gallery/winners/16055>